

令和5年度も終業式の日を迎えました。1年間の自身の成長を振り返っている人、これからの1年間に期待している人、それぞれだと思えます。この便りでは、3学期におこなった人権に関するホームルーム活動の、生徒の皆さんの感想をたっぷり紹介します！ 互いの思いや考えにふれてみてほしいです。そしてぜひ、前向きな気持ちでこの春休みを過ごして下さいね。

◎3学期 『人権に関するホームルーム活動』

2年生は、1学期の人権学習で「マジョリティの特権」と題した学習をおこなっています。多くの人は、知らず知らずのうちに「マジョリティ=多数派」としての「特権」を得ていることや、日常生活において「マジョリティ」こそが「アライ=理解者」として行動していくことの重要性について学習しました。このことをふまえて、今学期に「さまざまな立場に立って考えること」、「さまざまな立場を超えて行動すること」について考えを深めました。

【2年生①】『さまざまな立場に立って考え、行動する～障がいのある人の人権～』

とある車いすユーザーの訴えが込められた1枚のポスターを資料に、描かれた場面において、そこに居合わせた人すべてが「当事者」として関わるができること、および、それぞれの立場に立って何ができるか、を考えてもらいました。共生社会の実現を目指した「障害者差別解消法」と「合理的配慮」も合わせて学習しました。

＜皆さんの感想より＞

- ① 授業を受ける前の自分は、障がいなどないからあまり関係ないなと思っていましたが、これからはだまって見ているだけではなく、何でもよいので自分の立場でできる行動をしたいと思いました。
- ② 今回の授業を通して「さまざまな立場に立つ」ということを知ることができました。私は今の今まで「相手の立場」に立ったつもりでいました。でも私はまだ本当の意味では相手の立場に立っていませんでしたと感じました。別の授業で共生社会について学びましたが、また違う意味の共生社会が見えてきた気がしました。
- ③ もし、自分が「お店の人」になった場合に、今日話を聞いていなかったら、同じように車いすのお客さんを追い出してしまうようなことをしてしまっていたかもしれません。ですが、「周囲のお客さん」としてそこに居合わせた場合、私だったら～～をしていたと思いつくことがたくさんありました。そうやって考えることが、障がいのある方や共生社会について理解する第一歩なのかなと思いました。



【2年生②】『さまざまな立場を超えて、行動する～教科書無償運動から学ぶ～』

『教科書無償運動』を題材に、人々の連携・協働によって、互いの権利を守り、よりよい集団づくりや豊かな生活を実現させていくことの重要性を学習しました。それぞれの担任・副担任の先生によるメッセージが込められた授業となり、クラスによって異なる感想が届けられました。どんな思いで書かれた感想なのか、想像力を働かせながら読んでみて下さい。



＜皆さんの感想より＞

- ⑤ 困っている人のために手を差し伸べることで、その人だけでなく、周りの人や自分自身を幸せにしたり生活を豊かにしたりできるということがわかりました。困っている人がいれば、どうしてほしいと思うかを一緒に考えたり、行動に移したいと思います。
- ⑤ みんなに関係することを誰かが率先して運動を起こし、みんなが同じゴールに向かってがんばるということの意味を、理解し実感することができてよかったです。
- ⑤ みんなが幸せに暮らすためには、一人一人の行動が大事なだと気付きました。人を変えることはできないけど、自分が変わればそれについて来てくれる人がいるかもしれないので、まずは自分が良い方向に変わらないといけないなと思いました。
- ⑤ 差別というのはするの、見て見ぬふりをするのもそうだけれど、今でも無くならない差別に興味を示さないのも差別のひとつなのだということが、本時の内容で学びました。そして、その差別にあってなくても差別されている人の立場に立って差別されている人と共に差別を無くすための行動をすることは、すごく難しいことだけれど、とても大切だと思いました。
- ⑤ 「関わろうとしないことが差別」というのが、まさにその通りだと思いました。
- ⑤ 人それぞれ考え方は違うなと感じました。(出来事に対して)平和主義の人もあるし、ちょっと批判する人もいます。どうしたらみんな良い気持ちでいられるかと考え続けることが大切だと思いました。
- ⑤ その人にしかわからない痛みや苦しみがあると思うので、相手の意見を尊重してあげるとその人も楽になると思うけど、(その痛みや苦しみを話すことが)嫌な人もいると思うので、見守りながら関わり続けることが大切だと思いました。
- ⑤ 人は一人ひとりそれぞれ事情があり、そのことをお互い完全に理解していくことは難しいかも知れないけれど、少しでも皆が受け止め、そのことについて配慮した行動や言葉がかけができれば、たくさんの人や望む環境がうまれていくのではないかと思いました。
- ⑤ いろんな人がいる中で、どうすることが皆にとっての最善なのか分らないです。でも、皆のためにと奮闘したり、誰か一人のために行動を起こそうという強い気持ちを持つ人がいれば、人それぞれの最善を尽くすことが絶対にできると思います。「見て見ぬフリ」をして生きていくより、どうかしようと頑張っている人の方が、誰であろうと好感を持ちます。

◎ 3 学期 『人権に関するホームルーム活動』

1年生は年間を通して、「仲間づくり」や「コミュニケーション」、「自己理解」を人権学習の主なテーマにしてきました。学んだことを「実践」へ。日々の言動に、生かしていきましょう。

【1年生①】『自分も相手も尊重するコミュニケーション－クッション言葉を使ってみよう－』

1月には、コミュニケーションには3つのタイプがあること(なかでもアサーティブな自己表現(自分も相手も大切にしたい表現)を目指したいこと)、相手の立場も尊重するために「クッション言葉」を用いるとよいことを学習しました。

＜皆さんの感想より＞

- ① 自分の思っていることをどうしたら相手を傷つけることなく言えるか、を考えるのがとても難しかった。自分の思ったことを全て言う必要はないと思うけど、伝えたいことは言っていないといけないと思いました。
- ② 相手を傷つけないことも大切だけど、それで自分の意見が言えなくなるのは良くないと思いました。相手のことを考えながら、嫌だったことを伝えられるような力をつけていきたいと思いました。
- ③ 今までのコミュニケーションは非主張的な自己表現で、自分ががまんして、何も気付かない相手にも少し腹が立って言いたいことが言えないまま終わるのでモヤモヤしていたけど、アサーティブな自己表現のように、相手も自分もいい終わり方で話せるコミュニケーションの仕方があるとわかったので、ぜひ使ってみたいと思った。
- ④ なるべく意識しようと考えて今までも行動していましたが、今日あらためてクッション言葉がどんなことかを知り、相手の気持ちを考えて発言していこうと思いました。普段話している言葉と比べてみると、あきらかにクッション言葉のほうが言っている側も、聞いている側も良い気持ちでいられると分かりました。
- ⑤ 生活するうえで、『クッション言葉』を使える場面がたくさんあるということに気が付きました。今までそういう状況になった時、私は伝えたいことを口にするのが苦手ですぐに「大丈夫」や「全然いいよ」と言うことが多かったけど、今日からはクッション言葉を使って、自分が思っていることを相手を傷つけることなく優しい言葉で伝えられたらいいなと思いました。



◆いろいろな「クッション言葉」・・・復習してみましょう！

- ① タイミングをはかる … 「今ちょっといい？」「お取り込み中、すみませんが、」など
- ② 言いづらいことをいう … 「思い切って言うけど、」「ひとつの意見として聞いてね、」など
- ③ 頼みごとをしたい … 「お願いしてもいい？」「後でもよいのですが」など
- ④ 相手の気持ちに寄り添う … 「忙しいところ申し訳ないけれど」「恐れ入りますが、」など

【1年生②】『自己理解と他者理解－私ってどんな人？－』

2月には、**短所を長所にとらえなおす**など、自身に対する理解を深め、自分も周囲も肯定的に関わろうとする意欲を高めることを目指したワークをおこないました。『**ジョハリの窓**』とよばれる「**4つの窓**」を用いることで、私たちの個性は多面的にとらえることができることを学びました。



＜皆さんの感想より＞

- ① 自分ことは自分が一番知っている、分かっていると思っていましたが、今日の活動を通して、自分でも気付いていないことや思ってもいないことが人から見るとあると知って、びっくりしました。自分の良いところにも気づくことができたのでよかったです。
- ② 普段、自分を客観視して見ることがないので、文字にしてみんなから書いてもらったのを見ると全部いいことばかりでとても嬉しくなりました。自分の短所を言い換えると長所になることを知りました。同時に長所は誰にでもどんな人にもあるものだということを学びました。私も人のいいところをたくさん見つけて伝えられる人になりたいと思いました。
- ③ 一番に思ったことは、「もっと自分に自信をもつこと」です。この授業を通して、自分はこのままでいいんだ、落ち込む必要はないんだなど自信ができました。ネガティブにものごとを考えるのではなく、ポジティブにとらえ直して、毎日楽しく自信を持って過ごしていきたいです。
- ④ 普段一緒に生活しているクラスメイトや友達も、今見えている、自分が感じとっている性格がすべてではないと思いました。見えないその人の良さがあるって、もっと知れば印象が変わったり、よりその人の良さに気づけそうだと思いました。「この人はこうだ」と決めつけをするのではなく、その人の良さを見つける行動や、言動をしていきたいと思いました。みんなそれぞれに良さがあるので、それをみんなに知って欲しいし、みんな自信を持ちながら過ごせたらいいと思いました。
- ⑤ 一面だけで相手を決めつけないことや、否定しないこと、新しい自分と出会うことを恐れないことを心に留めて生活していきたいです。そして周囲の長所を見つけて伝えてあげたいです。前向きな言葉がたくさん飛び交うようなクラスになっていけばいいなと思いました。

*今年度の『なりすな』は、学期ごとに発行しました。皆さんにとってこの便りが、クラスや家庭等で「人権」について語り合うきっかけとなりましたら幸いです。 <令和5年度 人権教育推進スタッフ：森脇・山岡・小村・青木・小中>